

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202403		
法人名	株式会社日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム桜の詩		
所在地	静岡県静岡市清水区船越2丁目9-71		
自己評価作成日	2022/9/6	評価結果市町村受理日	令和4年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202403-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4年10月 11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>現在は若い職員が増え、外国人実習生の受け入れも積極的に行っている。ホームに活気があり職員が笑顔で仕事ができる環境がある。医療体制もすべての入居者様が協力医を契約をする事によって連携が早く入院をされる方が少なく慣れた環境にて生活が継続できている。災害についてもBOPの作成を行い、日々の訓練を行っているため、実際に大雨など警報が出た際もスムーズに対応が出来る。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員の年齢に幅があり、気づきが多彩で意見が言い易い環境であり、ベテラン職員が新人を指導して、情報共有ができています。管理者は本部の災害対策本部長でIT関係にも携わっているため、事業所の災害対策やIT化にいち早く取り組み職員の教育も進んでいる。また、コロナで職員と利用者の感染、先日の水害で地域の長期断水を経験し、今後の対策に課題をみつけ取り組んでいる。また、その際地域の他の事業所との連携の大切さを知り、今後に活かす予定である。職員の手作りの食事は食材の調達時から生活協同組合のチラシをみんなで見て食べたい物を選んでいるので食欲もあり、楽しみの一つになっている。また、アクティビティーにも力を入れ、利用者には強制せずに取り組んでもらっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解した上でこの目標を実践している	管理者は、年に2回の面談で理念を評価シートに記入してもらい理解度を確認している。また、職員一人ひとりの目標をたて、面談で話し合っ達成を確認して次につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的なドブ掃除や敬老会などのイベントに参加、現在はコロナの為開催されていない。	自治会に加入し、回覧板を隣の大家さんに届けるなどで地域との関係継続を図っている。職員は近くに居住している人が多く、地区のドブ掃除などに職員が参加し、地域の情報を教えてもらっている。コロナ以前はシニアサポーターなどが来所していた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の方からの相談、受け入れなどを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナの為、運営推進会議を開催していない為郵送にて周知をしている	現在はコロナ禍のため書面開催としているが、行政に記載内容を確認して取り組み状況などを報告している。全家族に議事録を送付し、介護支援課、地域包括支援センターにはFAXを送っている。自治会長、民生委員は交代されたが、コロナ禍で連絡が取れず、報告ができていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現在はコロナの為、運営推進会議を開催していない為郵送にて周知をしている	生活支援課の職員は生活保護の利用者の様子を気に掛けて来所したり、連絡がある。外部研修の案内はメールで届くなど、協力関係を築いている。市の関係課に水害訓練の実施状況を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回の勉強会、年3回の研修を通じて、身体拘束の基礎から、身体拘束を行わない為の認知症の理解など研修を行っている	マニュアル・指針は整備され、委員会のメンバーは管理者、リーダー、1階職員の4人で構成している。法人の身体拘束委員会で話し合われたことを再検討している。研修会は年に3回行われ、身体拘束の基礎知識、ホーム事例、対策とスピーチロックについて話し合い、取り組んでいる。	

静岡県(グループホーム桜の詩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対する研修を通じて防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見を付けている入居者がいるため、少しの理解がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時はもちろん、加算の変化の際には家族に説明を行い、承諾を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	なにかあればご家族より要望を聞き、出来る限り沿う形にしている	1か月に1回、写真付きのお便りを家族に送付し、Instagramも開設し、閲覧している家族もいる。現在進めているIT化の介護計画書に家族の意見を記入してもらい、日常の様子も見られる機能があるので将来は使う予定である。	今年度職員の入れ替えがあったが、家族への公表がなされていないので、早急に紹介出来る機会を設けるよう希望します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現在会社内にて分科会を設立し、各現場からの声を運営に反映させている	職員がリーダーや管理者にも意見を言える関係性があり、物品購入等、細かい物は職員裁量で購入している。法人は、全管理者が集まる会議があり、管理者同士の横のつながりがあって、職員の情報を得やすい環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員不足を解消するべく、外国人実習生の受け入れを積極的に行い、改善している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時はもちろん、様々な研修を行い教育をしている		

静岡県(グループホーム桜の詩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	防災に関しては管理者が他会社の人間と定期的に勉強会を行っている。相互訪問についてはコロナの為行えていない		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と話しをする際に困っている事などを聞き取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談やご家族の気持ちなど傾聴し、不安を取り除くべく関係を作っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームだと他サービスで行えることに制限がある為、他施設を紹介することもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム長の考え方で疑似家族をテーマに距離の近い関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム、家族、医師のチームで介護を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友達や宗教の関係者など面会を断る事なく受け入れている	面会は制限をできるだけ設けないように心がけ、訪問者の情報については速やかに家族に連絡している。利用者の要望に出来るだけ沿えるよう、行きたい所があれば外出支援できるように配慮している。	

静岡県(グループホーム桜の詩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	すべての入居者様に話しかけるようにし橋渡しをしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様のご家族が服や食材をもってきてくれるなど関係を作っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回アセスメントから日々の暮らしの中での情報をカンファレンスにて職員同士で情報の共有を行っている	初回アセスメントの情報は職員が共有し、利用者の生活歴を気にかけて支援している。職員は申し送りノートや引継ぎ、意見交換で情報を共有し、モニタリングは全職員が全利用者の記入をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からの聞き取りやご家族からも聞き取りを行ない、情報を把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	そのひとのペースを尊重し、体調に配慮しながら残存能力の発揮を促している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活上の情報を把握し、医師、看護師、訪問マッサージ、歯医者など様々な方々の情報をきいて介護計画書を作成している	全職員が記入した、モニタリング表を基にカンファレンスを行っている。ベテラン職員からは意見が多くあり、新人職員の参考になっている。プラン以外についても意見交換をする風通しの良い関係性を築いている。必要な関係者の意見を聞いて介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子に加え様々な気づきを記入し情報共有に努めている、さらに実践や計画に反映している		

静岡県(グループホーム桜の詩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	パーソンセンターケアをもとにその人のニーズにこたえられるように出来る範囲で対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為外出が難しいが近所を散歩し、近所の方に挨拶するなどしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全入居者が協力医と契約をし、24時間対応を行って来ている、月3回の診察、月4回の訪問看護を含め医師、看護師と情報を共有している	全利用者が協力医により月3回(全員診察1回、個人診察2回)の往診を受けている。看護師は往診時と週1回来所するので、利用者の体調を相談できる。協力医は24時間対応で、内科以外の医師もおり、他科診察の対応ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ICTを使い口頭にて説明が難しいものに関しては写真や動画にて情報を説明している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	会社にて地域連携室があり、普段からコミュニケーションをとっているため、スムーズに話が進む		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時よりご家族に看取りについてお話をしている、その後状態に変動があるたびに医師、ホーム、家族にて話し合いを行い、その結果を職員が把握し看取りケアを行っている	マニュアル、指針が整備され、入居時に事業所の方針について家族や利用者説明をしている。利用者の状態の変化があると、医師が管理者に状況について話し、家族に説明をする。再度事業所の方針を説明し、今後について家族の意向を聞き同意を得て、看取りの支援をしている。毎年、協力医主催の看取りの研修を受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医より研修を受け、状態よっての対応を勉強している		

静岡県(グループホーム桜の詩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練、年1回の水害訓練を行っている。実際に警報が出た際などは行動を行い、訓練へとつなげている。BCPについてもその都度見直しをしている	管理者が本部の災害対策本部長であり、日頃からの話し合いで職員は災害のBCPが身につけている。今回の水害で断水を経験し、課題が見つかったので対策を取り、系列の事業所のつながりが大事であることも痛感したので、連携をさらに確立していく予定である。夜間訓練も実際の夜勤職員が経験し、備品備蓄は今後は法人で管理し準備されている。	発電機の購入について法人で手配ができています。災害時の地域連携は出来つつあったがコロナでストップしてしまっただけでなるべく早めに再開される事を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症だからではなく1人の人間が認知症になったという事を考えその人らしい言葉掛けを行っている	経験豊かな職員が新入職員に日頃から利用者に対しての声かけや接し方について指導、注意を行い、ベテラン職員にはリーダーや管理者が注意をしている。利用者の呼び方は利用者の希望を尊重し、家族の了解を得ている。また 研修も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望、趣向を受け止めやすい声掛け、二者選択を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴よりその人に合ったペースにて生活が出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択の際は入居者様と職員と一緒に決めて、アドバイスなどをし合わせてチェックしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スーパーの買い物など入居者様の意見を聞き購入をしたりする、その日に何を作るか決めるため入居者様に何が食べたいか聞き要望に答えたりする。簡単な調理、食器の片付けなど行ってもらっている	主に生活協同組合から食材を購入しているが、注文用紙を利用者と一緒に見ながら、食べたいものやリクエストを聞き、調理は職員が行っている。利用者には現在テーブル拭き、食器ふき等、出来る範囲で手伝ってもらっている。協力医関係の栄養士に献立のチェックやアドバイスを受け、献立作りの参考にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要なカロリー、水分量など栄養士にアドバイスをもらい提供している。自力摂取が難しい方にはムース食を提供している		

静岡県(グループホーム桜の詩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりに応じた口腔ケアの実施、自立の方は声掛けにて誘導し、介助が必要な方、うがいができない方などは口腔スポンジにて残渣物を除去している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	普段から声掛けにて誘導し出来るだけオムツを使わないようにパターンを把握している	排泄の記録はタブレットに入力し、できるだけトイレでの排泄を支援している。利用者の中にはハビリパンツから布パンツに改善した方もいる。自立されている方も多く、尊厳を損なわない様に見守っている。夜間はポータブルトイレ、紙オムツ、声かけ誘導等利用者毎の個別対応を心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト、サツマイモなど食物繊維を接種していただき、体操などで体を動かしてもらい排泄を促している。腹部マッサージや肛門マッサージなどを行い排泄する方もいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を複数用意し、ご本人の気分によって変える事が出来る。浴槽につかれない方についても足浴が出来るようにしている。同性介助が希望の方には意向に添えるよう工夫をしている	入浴剤3~4種類を用意し、週2~3回入浴している。時間は午前を基本とし、午後の入浴や毎日入浴したいという希望にも柔軟に対応している。拒否される方には声かけの工夫、家族の協力も得て入浴支援をしている。また、足浴も随時行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体力に応じ、お昼寝が必要な方には休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を理解し症状、体調の変化、日々観察し、医師だけではなく薬剤師とも連携をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとりひとりに合ったレクリエーションを考え、お手伝いが好きな人にはご褒美を、塗り絵が好きな人には様々な塗り絵を用意するなどしている		

静岡県(グループホーム桜の詩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて外出が難しい為、ホーム内で出来る運動会や、散歩などを行っている。	玄関先にベンチを準備して外気浴や近くの散歩を楽しんでいる。また車中ドライブや施設内では、各フロア毎、運動会やゲーム大会を行い楽しんでいる。日頃、午前中はアクティビティを充分行い、訪問日も利用者と職員が歌を歌って楽しんでいた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて金銭管理をしている、希望があれば買い物をしたり、ご家族にお願いしたりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自立されている方は携帯電話にてお話をされている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が落ち着かないような派手な飾りはせず、季節に合った飾りつけをしている	居間の壁面に利用者の塗り絵や作品を掲示している。加湿機付きの空気清浄機を各フロアに3台置き、清掃は職員が行い、手すり拭きは利用者と共にしている。換気については、天窗を使い、感染対策に注力していく予定である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自立が必要な方は自室にて過ごされたり、テラスにて過ごされたりしている。介助が必要な方については声掛けし誘導をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身が使っていた家具などを持ち込み自由にしている、仏壇やテレビ、ご家族の写真などを飾っている。窓を開ければ木々が見え、虫の声を聞いている	衣類や布団、小さなタンスまで収まるクローゼットが備え付けられ、担当職員が衣替えや整理整頓を行っている。家族の位牌を置いて、毎日お水を取り替えている方や絵を描くのが好きな方は、自室で自由に好きな絵を描いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立の方は自由にフロアや自室、テラス、畑に行き来が出来、自立した生活を送れるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202403		
法人名	株式会社日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム桜の詩		
所在地	静岡県静岡市清水区船越2丁目9-71		
自己評価作成日	2022/9/6	評価結果市町村受理日	令和4年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202403-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4年10月 11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在は若い職員が増え、外国人実習生の受け入れも積極的に行っている。ホームに活気があり職員が笑顔で仕事ができる環境がある。医療体制もすべての入居者が協力を契約をする事によって連携が早く入院をされる方が少なく慣れた環境にて生活が継続できている。災害についてもBOPの作成を行い、日々の訓練を行っているため、実際に大雨など警報が出た際もスムーズに対応が出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自治会に参加し、ドブ掃除や地域の清掃等に参加している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	牛乳パック、雑紙、段ボールなど地域資源に提供する事によりつかりを保っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所を散歩する際に近所の方に挨拶をし、認知していただいている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ禍の為行っていないが、書面にて周知している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村職員にホームに来ていただき現状を見ていただく事で理解していただいている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	医療機関との連携のもとに身体拘束についての研修を通じ職員同士の意識統一を図り、支援内容が拘束にならないか見直しをしている		

静岡県(グループホーム桜の詩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に対する研修を通じて防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護を使っている入居者がいるため、把握はしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に説明をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	なにかあればご家族より要望を聞き、出来る限り沿う形にしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム内会議などでは職員の意見を尊重し日々の業務に反映している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度を使い評価、キャリアアップの制度を実施している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、ホーム研修を通じ年4回以上の勉強会をしている、その他にも動画やネット会議などを使い知識を向上している		

静岡県(グループホーム桜の詩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や研修、他事業所への応援等で情報を得ている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃より何かあったらすぐに言ってね、何か困っていることはない?など声掛けをするよう心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族よりなにか声がかかったり、要望があればすぐにホーム長に相談している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族がどこまで理解をしているのかを把握し、一つ一つ聞いている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としてかかわっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も本人の意見に沿うように考えて下さっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時にどんな方だったのか、昔の事を聞きもっとその方を知っていく		

静岡県(グループホーム桜の詩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の相性をしっかり考えた座席の配置や談笑中も会話が円滑に進むよう職員が間に入り、楽しい時間にする		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取り後も自宅では使えないがホームにて使えるものを寄付してもらおうなどのつながりがある		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴は日にちを決めずにその日その日ご本人に聞き、無理なく行う、水分もご本人が好きな物を聞いたり等し、対応している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様のこだわりや大切にしている事は日ごろより行うようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご自身で行えることや最低限行って井田佐紀隊動きは時間をかけて行っていただいている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス時チーム内で再認識を行っている、また日ごろの申し送りでも職員同士情報の共有をしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員同士で話し合い、行う。一人で考えず悩んだり迷ったりしたときは必ず周囲の職員に聞く		

静岡県(グループホーム桜の詩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズには出来る限り対応している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナ禍で難しかったりしますが可能な限り地域交流を心がけていく		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医と連携し、体調の変化には迅速に連絡をし、対応をしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝協力医とその日の受診確認や体調に変化のある入居者様の連絡をし対応をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	必要であるものは揃え、入院中も不自由を感じないよう、安心できるよう心がけ病院関係者に様子や方針をうかがう		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族、協力医、ホーム長と話し合い、ご本人ご家族様の考えを尊重、共有し取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医より研修を受け、状態よっての対応を勉強している		

静岡県(グループホーム桜の詩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍にて地域との連携はこのところ困難ですが、職員間で災害時の対応の連携はできている、夜間に垂直移動訓練を行った		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様各々にあった声掛けをし、意思を尊重している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動を起こす前に入居者様に声掛けをし、希望を伺っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コロナ禍で難しですが、時間を作り、散歩やドライブなどを行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	体調や天候に合わせて伺いながら着用していただいている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備は困難であったりしますが、下膳できるかたはしていただいたり、食器拭きをお願いしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	困難な方には、刻み、ミキサーペースト食と段階に合わせている、水分不足の方には飲み物を変えて提供している		

静岡県(グループホーム桜の詩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりに合った口腔ケアを毎食後実施している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとりひとりの状況に合わせて行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ひとりひとりに合った方法で行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人のタイミングに合わせて実施している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に沿った支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	Dr.薬剤師と連携しながら行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にあつた音楽やレクリエーションの提供など行っている		

静岡県(グループホーム桜の詩)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方が望む形をとり支援している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームで行っており、ほしいものは買い物にしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自立されている方は携帯電話にてお話をされている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居様が落ち着かれないようなにぎやかな飾りつけはしない、季節の花を飾り、季節感のあるカレンダー作りをしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自立が必要な方は自室にて過ごされたり、テラスにて過ごされたりしている。介助が必要な方については声掛けし誘導をしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身が使っていたかぐなどを持ち込み、自由に過ごせるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立の方は自由にフロアや自室、テラス、畑に行き来が出来、自立した生活を送れるようにしていますが、見守りを強化しています。		